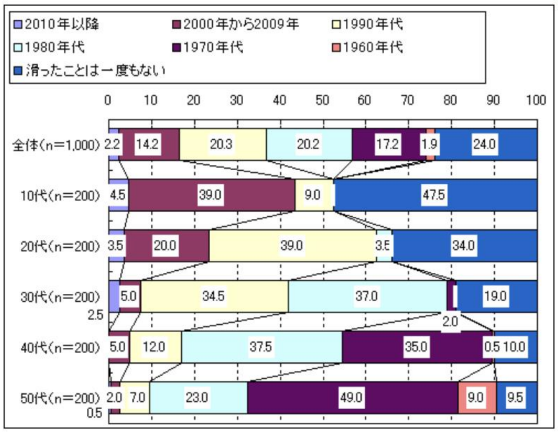
未来のスケーターと滑る！京都アクアリーナ

飯塚みのり
（2018 年度入学　鈴木ゼミ 2 期生）

＜はじめに＞

スケートリンクで最も頻繁に滑った時期はいつか（単一回答形式）（単位：%）



皆さんはスケートリンクに遊びに行ったことはありますか？2011 年にライフネット生命保険(株)が行った調査では、「スケートリンクで最も頻繁に滑った時期はいつか」という質問に対し、「滑ったことは一度もない」と答えた人は 20 代で 34%、10 代では 47.5%と、年齢が低くなるほどスケートをしたことがない人が増加する傾向があります。

私は小さい頃からフィギアスケート観戦が好きだったこともあり、小学校低学年の頃、姉と一緒に京都アクアリーナのスケート教室に通っていました。その後も友人と遊びに行ったり、オリンピックシーズンにはリンクで好きな選手のポーズを真似して写真を撮ったりとよく訪れる場所でした。今回はそんな京都アクアリーナの紹介、利用者数の変移を分析し、後半ではフィギアスケートに焦点を当てながら、その魅力に迫っていこうと思います。

＜アクアリーナってどんな場所？＞

京都アクアリーナは、京都市右京区の西京極総合運動公園内にある世界基準のメインプールとアイススケートリンクを備えた総合運動施設。スケートリンクは京都市内唯一の屋内リンクで、11 月から 3 月の冬季の営業となっており、夏期はプールとしての営業となる。他にもアーチェリー場やボルダリングジム、芝生広場があり、本格的な競技からのんびりとした時間まで楽しめる。

＜利用者数の変移＞

平成 27 年度～30 年度のアクアリーナの利用者数の変移は以下の通りである。（出展：文化市民局市民スポーツ振興室の平成 30 年度 公の施設の指定管理者による管理運営状況）。ほとんど横ばいの推移で、年間約 230,000 人が利用している。

(2) 施設の利用状況（施設の稼働率，利用者数，事業参加者数など）

年度		２７年度	２８年度	２９年度	３０年度		
指標① 利用人数（前年度より対実績2%増で目標設定）							
	目標値 （人）	212,908	217,166	243,182	244,255		
	実績値 （人）	212,908	238,414	239,466	234,173		
	対前年度比	－	112.0%	100.4%	97.8%		
	目標達成度	100.0%	109.8%	98.5%	95.9%		
指標② 教室参加人数（前年度より対実績2%増で目標設定）							
	目標値 （人）	12,319	12,565	12,603	12,824		
	実績値 （人）	12,319	12,356	12,573	12,013		
	対前年度比	－	100.3%	101.8%	95.5%		
	目標達成度	100.0%	98.3%	99.8%	93.7%		

この中で注目したいのが、オリンピックが開催された平成 28 年度（2016）と平成 30 年度（2018）である。前者は夏季大会のリオデジャネイロ五輪、後者は冬季大会の平昌五輪が開催された年である。夏季大会では競泳が、冬季大会ではフィギアスケートやスピードスケートが行われるため、それに伴って利用者が増える可能性が考えられる。この仮説をもとにデータを見てみると、平成 28 年度（リオ五輪期）は対前年度比が 112.0%と表中の 4 年間で 1 番の増加率である。これはオリンピックでの競泳が影響した可能性がある。実際、日本は競泳で金メダルを含む 7 個のメダルを獲得しているため、その盛り上がり方からもこの仮説は支持される。次に、平成 30 年度（平昌五輪）のデータを見ると、こちらは対前年度比が 97.8%でやや利用者の減少が見受けられる。平昌五輪ではフィギアスケートの羽生結弦選手の前回大会に続く 2 連覇達成や、スケート競技全体で金メダルを含む 8 個のメダルを獲得しているが、それは利用者数には影響しなかったようだ。

ただし、このデータは施設全体の利用者に関するものであり、施設別（プール、スケートリンク、フィットネス別）の利用者数はわからないため、オリンピックが利用者の増加に影響したとは一概には言えない。また気温などの外的要因も利用に影響する可能性があるため、それを踏まえて施設別のデータを見ることが出来れば仮説が実証される可能性もある。コロナ禍で行われた異例の東京 2020 オリンピックの影響も含め、今後調査してみるのも面白いかもしれない。

＜アクアリーナの魅力！＞

其の一：白熱の大会

先述した通り、アクアリーナでは国際基準の大会を開くことができる。2020 年 10 月には、第 46 回西日本フィギアスケート選手権大会が行われた。この大会と東日本選手権を勝ち抜いた選手が全日本選手権出場の切符を手にするため、選手にとって非常に重要な大会である。女子では平昌五輪代表・全日本選手権優勝経験のある坂本花織選手や四大陸選手権優勝者の三原舞依選手、男子では平昌五輪代表の田中刑事選手や本田三姉妹の兄本田太一選手が出場した。アクアリーナはこのような大会を京都で唯一開催することの出来るリンクであり、日本を代表する選手の演技を身近で見ることができる貴重なリンクである。この他にも国体の予選やアイスホッケー、スピードスケートの大会も行われているため、地震が滑りに行く際はイベント日程を確認してリンクが一般開放されているか確認すると良い。

其の二：イベントや普段のリンクで会えるスケーターたち

アクアリーナでは、大会以外にもシーズン初めと終わりのエキシビションやアイスショーなど、様々なイベントが開催されている。2015-16 シーズンのファイナルイベントでは、本田真凛選手、本田望結選手、本田沙羅選手の本田三姉妹が登場した。大会とは違う雰囲気でのプログラム披露や、三姉妹揃っての演技は非常に豪華であっただろう。

またアクアリーナに遊びに行くと、リンクの真ん中でジャンプやスピンの練習をする小さなスケーターや、スケート部の学生に出会う。友野一希選手の母校である同志社大学のスケート部も練習拠点として利用しているようだ。（ちなみに京産のアイスホッケー部の活動場所のひとつでもあるみたい）。

実は日本の第一線で活躍するスケーターには京都出身者が多い。平昌五輪代表で全日本選手権 4 連覇の経験もある宮原知子選手や、本田三姉妹も京都出身である。アクアリーナで見かけるスケーターも、未来の五輪選手かもしれない。そうでなくとも、夢に向かって頑張る選手を間近で見ることができる素敵な場所である。

其の三：気軽に通えるスケート教室

アクアリーナでは様々なレベルに対応したスケート教室が開講されている。対象年齢３歳からのちびっこスケートから、大人も楽しめるエンジョイスケート、ジャンプやスピンの習得を目指すテクニカルスケートなどがある。開講曜日や回数／月の選択肢も豊富で、月謝も安く非常に通いやすい。フィギアスケートは費用のかかるスポーツであると思われがちだが、実は趣味程度なら気軽に始めることができるのだ（もちろんプロを目指すとなると話は別だが）。実際に私は、「かんたん初級スケート」で滑り方の基礎や止まり方を習ったに過ぎないが、「スケート習ってるんだ」と少し自慢できた。観ていただけのスポーツやスケーターを身近に感じられたことも、習ってよかったと思うことである。

＜終わりに＞

コロナ禍でスポーツの持つ力とその重要性をより感じるようになった現在。アクアリーナは私たち利用者にとっても、未来のアスリートたちにとっても非常に大切な場所である。まだスケートをしたことがない人は、是非足を運んでみて欲しい。あの空間がきっと、皆さんを繋いでくれるはず。

＜参考文献＞

・Mpac「フィギアスケート」に関する調査
https://www2.fgn.jp/mpac/_data/8/?d=201106_14
・京都アクアリーナ HP
http://www.kyoto-aquarena.com/event_schedule/skate_schedule.html
・京都アクアリーナ　スケート教室
http://www.kyoto-aquarena.com/wp-content/uploads/2015/09/skate_lesson_201511.pdf
・THE SANKEI NEWS 世界ジュニア優勝の本田真凛選手、タレントの妹２人と華麗な舞 地元・京都でエキシビション（2016.4.4）
https://www.sankei.com/west/amp/160404/wst1604040094-a.html
・スクランブルトーク「西日本選手権 2020 の出演選手情報」

https://scramble-talk.com/nishinihonsensyuken2020-84947
・日本オリンピック委員会 リオデジャネイロオリンピック 2016 日本代表選手団メダリスト・入賞者一覧
https://www.joc.or.jp/sp/games/olympic/riodejaneiro/japan/winnerslist/
・日本オリンピック委員会 平昌オリンピック 2018 日本代表選手団メダリスト・入賞者一覧
https://www.joc.or.jp/sp/games/olympic/pyeongchang/japan/winnerslist/
・文化市民局市民スポーツ振興室
平成 30 年度 公の施設の指定管理者による管理運営状況
http://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/gyokaku/siteikanri/h30/046-1.pdf